



右上／約1ヘクタールの畑に30kgの種をまいています。使用しているトラクターなどの機械は、町の新規就農者等支援事業で購入しました。右下／成澤さんのご両親と妻の有紀子さん、4男1女の9人家族。左／10月頃になると、大豆は成澤さんの膝上くらいの高さまで成長します。



恵庭市で無農薬・無肥料の「自然農法」に取り組んでいた故・坂本一雄さんのもとで農業を学んだ成澤寛和さん。

白糠では野菜全般 育ちがいいんです。

もりもりふぁーむ成澤寛和

最初に成澤寛和さんを取材したのは、2019年8月頃（2019年広報しらぬか9月号掲載）。成澤さんが農業法人「株式会社もりもりふぁーむ」を設立し、白糠町で自然農法による農業を始めた年です。それから3年目となる2021年、もりもりふぁーむの取り組みはどのようなものか、成澤さんの一年を追いました。

一年目は実験的に栽培した野菜も多くあったと思いますが、今でも栽培しているものはあります。

黒大豆と黒千石大豆、くらかけ大豆の3種類の大豆を中心に、小豆やインゲン、栗豆など多く

の豆を栽培しています。他にはニンジンやジャガイモ、ピーマン、ダイコン、ミニトマトなどの野菜も作っています。最初は、この土地にどんな作物が合っているのかを確かめるため、いろいろな野菜を育ててみましたが、どの野菜も順調に育って（笑）、作るのを止めてしまったという野菜はないですね。白糠では、野菜全般そうなんですけど、育ちが非常にいいんです。ジャガイモですと2トンから3トンくらいは作れるようになりました。

「ジャガイモ（きやあかね）は東京の一流レストランでも使われるようになりましたし、ふるさと納税でも人気の品の一つになりましたね。」

ありがとうございます。「とても評判がいいんですよ」って言うのと、鼻が高くなるので言いませんが（笑）、おかげさまで東京のレストランでも使っていたにいます。さやあかねは、ポテトサラダやフライドポテトなどに向いているイモなんです。これからもっと収穫量を増やしたいと思っていますが、そうすると貯蔵をどうするのか、という課題もあります。

1／2021年は6月1日に種まき作業を行いました。種は昨年収穫した豆を使用。2／トラクターに装着された播種機に種を入れる父親の成澤祥明さん（69歳）。この日は、母親の真弓さん（69歳）と3人で作業に当たりました。



3・4／トラクターでまいた種に土が被らなかつたときは、手作業で植え直しています。トラクターの後ろを歩きながら、目視で確認をしています。